

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2023年4月4日

事業ID:2022010005

事業名:愛知県名古屋市内における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの開設と運営(1年目)

団体名:特定非営利活動法人えがお咲く丘

代表者名:理事長 池田 直樹

TEL:052-750-1802

事業完了日:2023年3月31日



■契約時

事業費総額	:	45,790,000 円
自己負担額	:	0 円
助成金額	:	45,790,000 円

■箇所は【フォーム】収支計算書より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	51,298,781 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	5,508,781 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	45,790,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

物件状況:団体所有物件(築28年)
 内容:木工事、電気工事、空調設備工事、設備配管工事、弱電工事、サッシ入れ替え工事、サイン工事など
 施設名称:えがおの架け橋
 面積:総面積約198m2 構造:鉄筋コンクリート造
 1.「子ども第三の居場所」の開設
 施設概要:食事・交流スペース、キッチン、相談室など 定員子ども20名



(2)事業完了時の事業内容(実績)

物件状況:団体所有物件(築28年)
 内容:木工事、電気工事、空調設備工事、設備配管工事、弱電工事、サッシ入れ替え工事、サイン工事など
 施設名称:えがおの架け橋
 面積:総面積約198m2 構造:鉄筋コンクリート造
 1.「子ども第三の居場所」の開設
 施設概要:食事・交流スペース、キッチン、相談室など 定員子ども20名

(3)成功したこととその要因

コロナ禍ということで、材料費の高騰、工事の遅れがあったが、2023年12月28日に開所することができた。

(4)失敗したこととその要因

無し

(5)事業内容詳細

木工事、電気工事、空調設備工事、設備配管工事、弱電工事、サッシ入れ替え工事、サイン工事などの実施。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2. 愛知県名古屋市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間: 2022年4月1日～2023年3月31日(週3日、9時から18時まで開所)
(2)場所: 愛知県名古屋市中村区
(3)対象: 家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年を中心に20名
(4)内容: 子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。



(2)事業内容の実施(完了)状況

2. 愛知県名古屋市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間: 2022年12月28日～2023年3月31日(週3日、9時から18時まで開所)
(2)場所: 愛知県名古屋市中村区
(3)対象: 家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年を中心に20名
(4)内容: 子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。

(3)成功したこととその要因

子ども食堂や地域の方向けのヨガイベント、子育て広場の開催を行うことができた。
学区へ挨拶およびスクールカウンセラーとの面談の実施。

(4)失敗したこととその要因

事前に中村区の社会福祉協議会と連携をする機会があり、問題を抱える子どもと面談ができたが、通所につなげることができなかった。本人の考えている事と、親と担当者との食い違いがあったことが要因だと考えられる。

(5)事業内容詳細

愛知県名古屋市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
子ども第三の居場所の周知と地域へのアプローチ

■事業内容3

(1)契約時の事業内容



(2)事業内容の実施(完了)状況

(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

①2022年12月1日までに「子ども第三の居場所」コミュニティモデルを開設する。
②運営開始までに関係各所(自治体、社会福祉協議会、近隣等)へ事業の説明会を実施する。
③ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供。

(2)目標の達成状況【700文字以内】

入力文字数	212	文字数チェック	OK
-------	-----	---------	----

①12月1日には、開所できなかったが、28日に開所式および内覧会を実施できた。
②開設前に地域への挨拶を行い、施設のお知らせを行えた。開所式や開所後に自治体や社会福祉協議会、地区のスクールカウンセラーと面談を行った。
③子ども食堂を通じて、ボランティアの方に参加してもらっている。参加者の中に3歳児から中学生の子たちが含まれており、交流が生まれている。引き続き、地域住民や、行政、学校との関係を深められるようにしていきたい。

3.事業実施によって得られた成果

子ども食堂の開催により、子どもたちが施設の利用する機会を設けられている。
子育て広場の実施により、未就学児とその保護者の利用者数も、少しずつであるば数を伸ばせている。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

子ども第三の居場所開設の情報が、予想していたより、近隣に周知されいなかった。SNSやカフェや子育て広場に訪問してくれた親子さんたちに、丁寧に説明し、認知してもらえるようにする。
引き続き、SNSにて活動報告をしたり、近隣の施設にチラシを置いてもらったり、ビラ配りを行っていく。
課題を抱えた子どもたちへのアプローチの方法をスタッフと共に考えていく。
スクールカウンセラーと共に、話し合いをしながら、どのような形で子ども第三の居場所に来てもらえるのかを考えていく。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

地域交流イベントチラシ(A4版、500部)、
開催報告および写真(個人情報に配慮した上で当団体
ウェブサイトやInstagramに掲載)
家族や地域向け小冊子(A3版、500部)ダウンロード
可能な形で当団体ウェブサイトに掲載



(2)事業完了時の成果物名称

- ・施設紹介パンフレット200部
- ・報告書(Instagram、ブログ、twitter)
- ・新聞掲載記事(中日新聞、中部経済新聞)
- ・SNS開設(Instagram・twitter)
- ・えがおの架け橋専用ホームページ

(3)未作成となった要因

SNSで広報活動を行ったため、チラシと小冊子は作成しなかった。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

<http://nippon.zaidan.info/seikabutsu/2022/00209/mokuji.htm>